

2020年3月5日

報道関係各位

日鉄物流株式会社

内航船員育成を目的とした実務型練習船の建造について

当社グループは、内航船員育成を目的とした509総トン型(*1)の実務型練習船(鋼材貨物船)を2020年3月末に竣工致します。

足元、国内の内航船員数は減少傾向にあり、かつ50歳以上の船員が5割を超える高齢化が進展しており、将来の内航海運の担い手不足が懸念されています。その対策の一つとして、当社は2018年度より内航船員の育成・確保を目的として、海技免状未保有者を雇用しようとする船主を対象に「若年船員育成支援制度」を導入しました。海技免状を取得して船員になるには、最短でも海技学院にて4.5ヶ月の養成講座を受講し、6ヶ月間の乗船勤務を経験する必要がありますが、海技学院の受講料などの一部費用を当社が負担する制度です。

この制度の利用が着実に拡大する一方で、一杯船主(*2)を含めた中小零細船主が多い内航海運業界では、定員数以上の船室を設置していない船舶が多く、かつ、当該船室を設置するための改造を進めることも容易ではありません。また指導する船員の経験・ノウハウや負担の観点から、意欲があっても、新たな船員の採用・育成が困難なことも大きな課題です。そこで、新たな船員の実務環境を整備し育成ができるよう、指導員1名と練習生最大5名が乗船できる居住区を確保した実務型練習船を建造することと致しました。

*1:総トンとは、船体及び船室などによって囲われている空間の容積であり、509総トン型船の容積は約5,484 m³

*2:所有船舶が一隻で、家族船員とともに自身も乗り組む船主

今回、当社が中心となり建造する実務型練習船の特徴は、以下の通りです。

- ①自社の船員に限らず、他社が雇用する船員も対象に育成します。
- ②船長経験のあるベテラン船員が専属指導員として乗船し、練習生の業務面の指導に加え、生活面もフォローできる指導体制とします。
- ③499総トン型をベースに居住区を拡大した509総トン型船舶とし、船室は通常より5室多い12室を確保しました。また教育の場とすることを意識した広いブリッジスペース、座学用の教室兼ミーティングルームとして使用し得る広めの食堂など、船員養成のためのスペースの充実を図りました。
- ④防音設備(天井・側壁)と発電機防振ゴムの設置、遮熱塗料(天井)の塗布に加え、各室にセパレートエアコン、浴室1室とシャワー室2室、トイレを1フロア毎(3フロア)に設置し、Wi-Fi設備も完備するなど、船員の快適な居住空間を確保しています。
- ⑤船内で機関の状態を監視するシステムについても、特別に船陸間通信機能を追加しました。この機能により陸上からの遠隔監視が可能となり機関部の業務を支援し、船舶の安全・安定航海と船員育成のバックアップが可能となります。

居住区の拡大は貨物の積載効率と相反するものですが、荷主からも確実な船員の採用・育成が安定輸送に不可欠であることをご賛同いただきました。この練習船を運航することで、船主をはじめとする内航海運業界の持続的発展に寄与していきたいと考えています。また、内航海運業界の将来を担う航海士や機関士の候補者がこの練習船への乗船を通じ、船員という職業に魅力を感じてもらふこと、また教わる側・教える側が乗務にやりがいを感じ、成長を共感できる場とすることを目指します。

【概要】

運航管理（オペレーター）	日鉄物流株式会社
船舶所有者	株式会社新光海運（当社グループ船主）
船舶借入人	大泉物流株式会社（当社グループ会社）
建造造船所	山中造船株式会社
総トン数	509GT（499GTの規制緩和）
DWT	約1,630t
貨物積載量	約1,500t
長さ	75.00m（全長）
幅	12.00m
深さ	7.00m（UPPERDECK）
ハッチサイズ	40.02m（長さ）9.50m（幅）
ブリッジ	約22.5㎡（標準船 約14.5㎡）
食堂	約14.5㎡（標準船 約10.5㎡）
船室	12室（標準船 7室）

【お問い合わせ先】

日鉄物流株式会社 総務部 広報課 道祖土（さいど）
電話番号：03-3241-6400（代表）、080-9067-0576（直通）

以上

実務型練習船

